

基本目標1 お互いに助け合う地域をつくろう 基本計画(1) ボランティアセンター機能の強化を図り、ボランティアを育成し、活動を支援します

項目	具体的な取り組み	取り組み実施状況	評価及び改善の方策	評価
①ボランティア活動に関する情報提供体制の整備	ボランティアをしたい方が町内のボランティア活動の情報を気軽に収集できるように、登録ボランティア団体の情報を整理し周知したり、ボランティア募集情報を広報誌などで掲載する。	<ul style="list-style-type: none"> ・県広報誌にボランティア団体を紹介した ・社協だより(年4回)、ホームページにボランティア団体を掲載した。 ・社協だよりレクリエーショングッズ貸出紹介 貸出件数 31件 ・アステラス内にボランティア団体一覧、ボランティア募集情報を掲示。 	<p>【事業成果】</p> <p>社協だよりによりボランティア団体一覧や活動を紹介することで、活動希望者やボランティアしてほしい方からの問い合わせがあった。</p> <p>社協だよりレクリエーショングッズ体験及び貸出記事を記載したところ多くの団体より貸出依頼あり。</p> <p>【事業課題】</p> <p>町民にボランティア情報が届くように、町内のさまざまな場所にボランティア情報を掲示する。</p>	4
②ボランティアニーズ調査の実施	ボランティアの活動場所を拡大したり、活動を活発にするために、広報・ホームページ・ケーブルテレビなどを利用してニーズ把握に努める。また福祉施設・事業所などに出向き、ボランティアニーズの聞き取り調査する。	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設等へのボランティアニーズ調査を実施し、ボランティアをマッチングした。 マッチング件数 22件 	<p>【事業成果】</p> <p>ニーズ調査を実施したことで、施設とボランティアのマッチング件数が増加した。</p> <p>【事業課題】</p> <p>ボランティアの活動場所を拡大するため、町内の福祉施設へのニーズ調査を継続する。</p>	3
③老人クラブと連携による、シニアボランティアの発掘	老人クラブと連携しシニアボランティア研修や意見交換会を開催し、シニアボランティア人口の増加に努める。 また、老人クラブ会員に対し特技の調査をし、新たなシニアボランティアとしての活動の場を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・町老連リーダー研修を開催し、地域包括支援センターより総合事業の説明を受けた。 	<p>【事業成果】</p> <p>老人クラブのリーダーが地域福祉の担い手であるという意識付けができた。</p> <p>【事業課題】</p> <p>特技を生かし、地域での活動を広げていく。</p>	3
④ボランティア団体等の交流活動の推進	ボランティア同士の連携や親睦をはかり、ボランティア活動の活性化のために、登録ボランティアの意見を基に、視察研修や意見交換会等を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年度交流会2回 ・H28年度交流会2回 ・H29からボランティアカフェ開始し、3回実施 (ボランティアカフェ開催チラシをボランティアで制作してもらい、役場・アステラスに掲示) 	<p>【事業成果】</p> <p>ボランティアカフェをすることで、ボランティア同士、顔の見える関係ができ、合同でイベントをするなど、活動が広がってきた。</p> <p>【事業課題】</p> <p>ボランティアカフェの企画・運営をボランティアと一緒にできないか検討する。</p>	4
⑤ボランティアルームの検討	ボランティアが気軽に入出入りが出来、意見交換や情報収集ができる場となるボランティアルームの設置に向けて、登録ボランティアの方々と検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター運営委員会や登録ボランティアへの聞き取りを行った。 	<p>【事業成果】</p> <p>求められるボランティアルーム 気軽に出入りできる コピー機・パソコン(インターネット)・プリンター・テーブル・イス必要</p> <p>【事業課題】</p> <p>アステラス内で理想の部屋がない。 行政施設の設置は容易でない。</p>	3

項目	具体的な取り組み	取り組み実施状況	評価及び改善の方策	評価
①「見守り会議」(仮称)の設置	<p>区長、民生委員など、地域において地域福祉の核となる方々が、普段の活動において「気にかかる方」の情報を共有し解決策を考えるための見守り会議(仮称)を設置する。</p> <p>まずは、区長・民生委員などに見守り会議(仮称)の必要性を説明し、理解を得られるところから順に設置する。</p> <p>設置後も、社協職員は見守り会議の運営について、地域包括支援センターや事業所と連携をとりながら、継続的に支援する。</p>	<p>・初年度に、区長・民生委員の情報交換会時に「見守り会議」の説明と、座談会の開催を呼びかけた。</p>	<p>【事業成果】</p> <p>【事業課題】</p> <p>当初、見守り会議の立ち上げは、地域住民の理解を得るため地域座談会を経て進めていくことを想定していたが、地域座談会の開催自体がむずかしく、見守り会議の立ち上げについては具体的に進んでいない。</p> <p>また、住民同士が個人情報に踏み込んだ話をするのが想定されるため、プライバシーをどのように保護するかという課題が残っている。</p>	2
②小・中学校での「福祉の授業」の拡充	<p>疑似体験による知識や技術を教えるにとどまらず、当事者や福祉施設、住民との交流などにおよぶ多様な授業内容を学校と関係機関と共に考え実施する。</p> <p>5年かけて町内すべての小・中学校で「福祉の授業」を実施を目指す。</p>	<p>・町内すべての小・中学校で「福祉の授業」を実施できた。</p> <p>・単発でなく、年間とおして継続的に実施する学校が3校になった。</p>	<p>【事業成果】</p> <p>町内すべての小・中学校では、定期的に福祉の授業が開催され、定着してきたと考えられる。</p> <p>【事業課題】</p> <p>先生との意思疎通がむずかしいため、積極的にコミュニケーションをとり内容を充実していきたい。</p>	4
③「地域座談会」の開催	<p>住民自身が地域に存在する様々な福祉課題を話し合い、自分たちの地域の課題として捉えられるような学びの場となる「地域座談会」を開催する。</p> <p>集落単位をベースに、5年かけて全集落の開催を目指す。</p>	<p>・初年度に2集落で実施できた。</p>	<p>【事業成果】</p> <p>実施した2集落では、区民が一堂に会し話し合うこと自体減っていたため、参加者からは好評だった。</p> <p>【事業課題】</p> <p>同じ集落で継続して実施できればよかったが、日程の調整がつかず、2回目の開催には至らなかった。</p> <p>また、その後、新しい集落での開催もできていない。</p>	2
④住民の考え方を広報誌などで周知	<p>アンケートや平成25年度に実施した座談会の結果から読み取れる住民の考えを「社協だより」やケーブルテレビ、その他さまざまな機会(地域座談会、福祉大会、福祉団体の集まりなど)に周知する。</p>	<p>・初年度に計画の概要版を全戸配布した。</p> <p>・社協だよりに数回にわたり、計画の紹介をした。</p>	<p>【事業成果】</p> <p>【事業課題】</p> <p>周知したのは数回で、住民に広く知れ渡っていない。</p> <p>考え方や、既存の住民の助け合いや福祉活動をPRしていきたい。</p>	3
⑤町の環境保全活動に協力	<p>町の環境保全活動に多数の住民が参加できるように、町の各行事などの協力体制の支援をする。</p>	<p>活動計画策定のための座談会で、困りごととして意見の多かった項目であり、作業部会でも話題となった項目であったが、具体的な取り組みができていない。</p>	<p>【事業成果】</p> <p>【事業課題】</p>	1

項目	具体的な取り組み	取り組み実施状況	評価及び改善の方策	評価
①社協職員における小学校区単位の地域担当を設定	<p>住民から寄せられる多様な生活課題を受け止め、地域を基盤にして解決につなげる支援やその仕組みづくりを行うため、社協職員の地域担当を設定する。社協職員は担当地域の福祉活動に積極的に参加し、ニーズ把握に努める。</p> <p>また、経済的困窮やひきこもり、孤立など深刻な地域の生活課題については、早期発見・早期対応に努め、関係機関との連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区単位で担当職員を設定し、地域活動支援グループを立ち上げた。 ・区長と民生委員の情報交換会に参加した ・それぞれの担当地域の地域サロンに参加した。 	<p>【事業成果】 何度かサロンに通うことで、サロン運営者との顔の見える関係ができつつある。</p> <p>【事業課題】 サロンに参加している高齢者等の生活ニーズ把握はできていない。 今後は、ニーズを把握するという意識で参加する。</p>	3
②社協職員の質の向上	<p>社協職員は県社協が実施する相談援助などの研修に参加し、資質の向上に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会参加回数 H27年度 7回 H28年度 5回 H29年度 6回 ・毎月1回職員会議を実施した。 	<p>【事業成果】 職員会議については、これまで異なる部門の職員が一堂に会する場がなかったので、そのような場として職員会議を開催すること自体に意義があったと考える。</p> <p>【事業課題】 県社協主催のキャリアパス研修等に計画的に参加する。 職員会議については、それぞれの出席者が何を求めているのか丁寧にヒアリングし、職員全員で作り上げる職員会議を目指したい。</p>	3
③地域ケア会議等への参加	<p>保健・医療・福祉サービスが切れ目なく提供できる体制づくりとして、社協職員は高齢、障害、子育て支援など、様々な分野の会議に積極的に参加し、関係機関との連携を図る。</p>	<p>少しずつではあるが、地域ケア会議やケース会議など、各分野の会議の参加機会が増えた。</p> <p>H27年度 6回 H28年度 5回 H29年度 9回</p>	<p>【事業成果】 福祉サービス利用支援事業関係、障害者関係、高齢者関係、様々な分野の会議に参加でき、顔の見える関係ができた。</p> <p>【事業課題】 会議に出ることで、個別ニーズを知ることができるが、それから地域支援に広がられていない。</p>	3
④福祉サービス利用支援事業の周知と定着	<p>認知症や知的、精神に障害のある方が地域で生活していくために、金銭管理、重要な書類の保管、各種手続き、福祉サービスの利用などの支援を適切に提供できるよう、社協だよりなどで福祉サービス利用支援事業の内容を分かりやすく掲載し周知を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員やケアマネジャーへ本事業のパンフレットを配布した。 現在の利用者数 3名 (うち、新規利用者 1名) 	<p>【事業成果】 平成29年度の新規の問合せは2件。いずれも専門職からの相談であった。専門職に対しては周知されつつある。</p> <p>【事業課題】 H30年度から、基幹社協に代わり町社協が実施することになる。スムーズに事業を移行し実施するための準備が必要。 窓口が町社協になったことを、社協だよりに掲載したり、各種団体の集まりで説明する。</p>	3

項目	具体的な取り組み	取り組み実施状況	評価及び改善の方策	評価
①近所同士の助け合いの推進	ちょっとした困りごととは近所同士で助け合えるよう、アンケート結果や地域での助け合いの大切さをチラシにし、回覧板などで周知する。	<ul style="list-style-type: none"> ・概要版を全戸配布した。 ・「社協だより」で、アンケート結果(一部)を掲載した。 ・2集落でアンケート結果を紹介した。 ・地域サロン1か所でアンケート結果を紹介した。 ・「生活支援コーディネーターだより」でアンケート結果や助け合いの大切さを掲載した。 	<p>【事業成果】</p> <p>住民に対し、助け合いの大切さの意識付けができた。</p> <p>【事業課題】</p> <p>地域の自然な助け合い活動を広げ深めていくことを目的とした協議体と連携を取りながら、助け合いの大切さを周知していく。</p>	2
②助けられ上手講座の開催	住民同士の助け合いが活発になるよう、また地域において頼みやすい雰囲気をつくるため、助けられ上手講座を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・H28年度に区長、民生委員を対象に「助けられ上手講座」を開催した。 講師：NPO法人健やかネットワーク 佐々木令三氏 ・H28年度の社会福祉大会で佐々木令三氏に講演していただいた。 	<p>【事業成果】</p> <p>区長、民生委員が助け合いの大切さをテーマにした講演と一緒に聞くことで、共通認識をもつ機会となった。</p> <p>【事業課題】</p> <p>区長、民生委員だけでなく、広く住民に知ってもらうための取り組みが必要。</p>	3
③有償ボランティアによる支援体制の整備	電球の交換やゴミ出しなど、日常生活におけるちょっとした困りごとに対応できるような、有償ボランティアによる支援体制に向けて地域包括支援センターなどと協議を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・H29年度に生活支援コーディネーター業務(委託)として、生活支援ボランティア養成講座を実施し、4名がボランティアに登録した。 	<p>【事業成果】</p> <p>介護保険のサービス外のちょっとした困りごとへの支援の体制が整った。</p> <p>【事業課題】</p> <p>全戸配布で事業のPRをしたが、ニーズがないため、さまざまな機会でも、ボランティアの周知をする。</p> <p>ニーズの掘り起こしとボランティアとのマッチングのやり方を先進地に学ぶ。</p> <p>問い合わせは、移動支援が多く、これには対応していない。</p>	4
④ 外出支援サービスの拡充	利用範囲の拡大や、通院だけではなく、社会参加に利用できるように運営方法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の外出支援のニーズとその対応策について検討した。 	<p>【事業成果】</p> <p>外出支援サービスは対象者が限られており、高齢者の交通手段のニーズに対応するのはむずかしいということが分かった。</p> <p>【事業課題】</p> <p>外出支援サービスではなく別の方法を考える必要がある。</p>	2

基本目標3 気軽に集えるみんなの居場所をつくろう 基本計画(1) 多様な地域交流の促進

項目	具体的な取り組み	取り組み実施状況	評価及び改善の方策	評価
①誘い合っ地域行事に参加	住民は地域行事に積極的に誘い合っ参加し、さまざまな住民とつながりましょう。	①は、座談会や関係団体への聞き取りで出された「行事をしても参加者が少ない、参加者が固定している」という意見への、住民ができることとしての項目。	①、②の意見に対する社協としての取り組みが、以下の項目③～⑤であるため、①、②の評価は対象外。	
②地域行事をさまざまな団体と企画	住民は、地域行事を活性化させるため、さまざまな団体と行事を企画しましょう。	②は、「行事の内容がマンネリ化する、内容を考えるのが負担」という意見への、住民ができることとしての項目。		
③地域行事及びサロン活動の実態調査	地域行事やサロン活動がより有意義に、かつ無理なく継続していけるように、現在の運営の実態や課題を調査し、結果を公表するなどして今後の地域行事やサロン活動の運営に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターと地区担当が地域サロンに向き、概要の聞き取りをした。また、その情報を整理し一覧を作成した。 地域サロン同士の情報交換の場として、地域サロン連絡会を開催した。 1集落で新規サロンが立ち上がった。 	<p>【事業成果】</p> <p>連絡会では、お互いの悩みに対するアドバイスなど、活発に意見交換されていた。また、レクレーショングッズを展示したことで、貸出件数も増えたことで、サロンの活性化につながった。</p> <p>【事業課題】</p> <p>調べた情報や出された意見を、見える化することで、サロン活動のさらなる活性化を図りたい。</p> <p>ホームページへの掲載、サロンのない地域へのアプローチ。</p>	3
④共同募金の助成の活用	世代間交流やサロン活動の資金面での支援として、共同募金委員会が実施している助成事業について情報提供し、申請手続きの支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 赤い羽根共同募金助成事業件数 H27年度 10件 H28年度 10件 H29年度 11件 	<p>【事業成果】</p> <p>毎年10件ほどの助成を実施し、サロン活動等の一助となった。</p> <p>【事業課題】</p> <p>助成について、広報紙等以外の情報提供の在り方についての検討。</p>	3
⑤サロン活動へ講師のあっせん等の支援	社協で把握している講師を整理しサロンの運営者等に講師をあっせんするなど、サロン活動がより活性化するための支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 貸出できるレクレーショングッズのチラシを作成し、地域サロンへ配布した。また、講師あっせんを行った。 <p>レクレーショングッズ貸出件数 31件 講師あっせん件数 24件</p>	<p>【事業成果】</p> <p>地域サロンへ足を運び、直接チラシを配布したことで、貸出件数が一気に増加した。また、講師あっせんの相談・派遣件数も増加しており、サロン活動の活性化の一助となっている。</p> <p>【事業課題】</p> <p>今後も、サロン運営についての困りごとなどに耳を傾け、既存のサロンが継続するよう支援していく。</p>	3